



党ネクスト外務大臣・参院議員 藤田 幸久 (ふじた・ゆきひさ)

トランプ大統領と闘う米国民、議会、裁判所

—トランプ大統領と国際会議で同席—

訪米報告

藤田幸久ネクスト外務担当は1月31日から2月6日まで、米国政治情勢調査と関係構築を目的にワシントン・ニューヨークを訪問した。帰国早々に、訪米報告を寄稿してもらった。

米国の良心が司法の独立と地方主権を守る

2月2日に開催された「全国祈祷朝食会議」(N P B)に出席しました。N P Bは1953年から毎年開かれ、大統領、上下両院議長、米軍統合参謀長などが出席します。米国民議会では上下両院議員が一緒に祈る朝食会が毎週開催され、その年次総会がN P Bです。



米国はキリスト教徒が多数を占める国ですがN P Bだけは各国からさまざまな宗教の議員などが招かれます。今年にはヨルダン国王をはじめ、世界の約140カ国から3千人以上が出席しました。

トランプ大統領は基調講演で「平和を愛するイスラム教徒がISISによって虐殺されている。ユダヤ人を根絶しようという脅威も存在する。I

ニア州の高等裁判所と連邦裁判所は大統領令取り消しの採決を下しました。司法の独立と罷免を覚悟で闘う裁判官の良心に深い感動を覚えます。私はとっさに、12月に日本の裁判所が「国の外交政策は政府が判断するので地方自治体はそれを否定してはならない」という論理で、沖縄県による辺野古沖の埋立承認取り消しを棄却した日本の対応とは、司法の独立と地方主権の両面でまるで異なると感じました。

閣僚の承認は遅れたが、賛否同数となり上院議長でもある副大統領の賛成票で承認された閣僚にもいます。大統領に安易に動かない立法府の威厳も行使されています。在外投票拡大の取り組みで連携しているニューヨーク日系人の竹田勝男副会長や「週刊NY生活」の三浦良一発行人は、移民や外国人労働者に対する規制強化によってグリーンカードを得ている米国永住権所有者の遺産相続などの面での不利益の拡大や、日本人長期滞在員や派遣社員の出留の困難化を懸念しています。在米日本人を守る対策も重要になります。

大統領に近い議員らと個別に会談重ねる。ピッテンジャー下院議員は、トランプ大統領の減税政策、移民制限、オバマケア撤廃政策に賛同して支援を決めたと言いました。オバマ政権での税負担と過剰規制によりGDP成長率が1%台にとどまった失政を変えるためにも語りました。ルートックマイヤー下院議員は、トランプ大統領はスタッフや家族に思いつきで深く、労働組合とも丁寧な意見交換を行っていると言っています。他方、面談員とも大統領の発信が国民に伝わらなかつた、誤解を与えることも

投票者との契約。トランプ大統領の「投票者との契約」という選挙公約の大統領就任1日目の政界浄化施策として、連邦議員の任期を制限する憲法修正案、ホワイトハウス役員・連邦議員の退職後5年間のロビイング禁止、ホワイトハウス役員員の外国政府のためのロビイングの永久禁止などがあります。日本のような天下り問題が起り得ないような大胆な政策です。貧しい白人貧困層などの怒りの受け皿として、既成政治の打破への期待から大統領に就任したトランプ大統領ならではの政策です。国務省ヤング日本部長が指摘するように、日本の民進党は国民の怒りの受け皿として、国民とともに闘う野党としての行動が原点だと痛感しました。多面性と意外性に富むトランプ大統領の良面は評価し、危うい面は冷静に注視しながら、これまでの政権以上にこの政権との継続的な関係構築を続けて行く必要性を痛感しました。

地域の民進党

国政報告会、セミナー開催。党が進む方向性確認。東海ブロック比例区第1総支部 衆院議員 中根 康弘(なかねやすひろ)



衆院東海ブロック比例区第1総支部(中根康浩総支部長)は、1月21日に「国政報告会」を、同日には藻谷浩介先生のセミナーを開催した。

国政報告会には約200人が参加し、大塚耕平参院議員、重徳和彦衆院議員、中根議員が活動報告やトランプ米国民新大統領をめぐる国際情勢、愛知12区での候補者調整の経緯などを報告した。藻谷先生のセミナーには約150人が参加した。藻谷先生からは「これからの日本はブランド力を持った商品、製品に強みを発揮し、人件費などを価格に転嫁しても売れるものを世界に発信し、質の向上を実現すべき」「高齢者のもつ金融資産を若者世代に移転することが内需拡大に不可欠。地域で消費するもの



衆議院議員 武正公一後援会 新春の集い 平成29年 岩槻支部

は地域でつくり、地域の収支を黒字にすることを考えるべき。人口の多い高齢者層をターゲットにする介護、健康、医療が成長の力になる」といった話があり、党の進むべき方向性を確認した。

辻元衆議院議員招き、集い開催「人への投資」の重要性確認。埼玉第1区総支部 衆院議員 武正 公一(たけまさ・こういち)

たけまさ公一後援会岩槻支部は2日、辻元清美衆議院議員を招き、さいたま市岩槻区内で「新春の集い」を開催し、後援会幹部ら90人が出席した。

武正議員は「先の国会で与党は年金カット、カジノ法案を強行採決し

た。国会では野党議員が少ないため、与党の横暴な政治がまかり通っている」と述べ、「来るべき総選挙では皆さまからの力をお借りして仲間を増やしたい」とあいさつした。

辻元議員は「武正議員とは衆院憲法審査会でご一緒して与党と日々発止のやりとりを続けている。今、取り組むべき最優先課題は憲法を変えることではなく、人への投資。学びたい人が学ぶことができる環境を整備することと力強く訴えた。

読者の声

民進プレス読者やウェブサイトなどをご覧の皆さんからいただいたご意見を紹介します。

国会で引き続き追及を

西塔直 勤め人 宮城県 30歳代



2月7日の国会中継を観ました。玉木雄一郎議員が天下り問題について、「文科省官僚の天下り先に支払われたお金」が、審議中の政府予算に影響していないとの確証

がなければ、予算の質疑は難しい」との指摘は理に適っていると思う。ぜひ今後国会で無駄な予算を追及してください。

また天下り問題で影が薄くなっておりませんが、私はサラリーマンなので、働き方改革の方もぜひお願いします。